

特集

素心のみんなと「ともだち」の



素心学院は、七十五人もの人たちが暮らして(他に生活ホム)に十六人、通所の人、父兄、ボランティアをはじめとする地域の人たち、職員など、沢山の人が往來する、一つの大きな集団です。

集団生活を送っていると、幾つか「むむっ!!」と、目を見張ってしまう様な「おかしな事」に出会うことがあります。学院では、月一度の「指導部会」において、そういった「おかしな事」についても検討し、出来る範囲で改善して行こうと努力しています。集団生活と、個別でプライベートな生活とは、どこまでも平行線が続き、決して一致はしません。とはいえ平行線の間隔を縮める努力は必要です。ただ、一概に集団生活を非難するわけにもいきません。集団生活にも、集団生活ならではの良さがあります。

今回の特集は、集団生活の良さの一つである「大勢の友だちを持つことが出来る」に焦点をあてることにより、素心学院という集団に帰属する人々が、より一層、楽しく、のびのびと生活出来るための、ふとした手掛かりにでもなれば...という願いの下に組まれたものであります。素心学院の仲間たちが、お互いに、楽しく語り、信頼し合いつきあえたら、どんなに充実した毎日が送れることでしょうか。その望ましいと言える状態ではない。

(3) 職員Cの回答

「常に院生対職員であって...」について言えば、これは、あくまでも職員レベルの視点に立った見方であり、現実には、日常的に院生同志の横の関係が薄いとは言いきれないと思う。ほとんどの職員以上には、院生の生活が長い院生にとって、中には職員が把握している以上に、強い横の関係が保たれるように思える。傍点は編集者による(確かに「院生対職員」という現実には、よく分かる。これは、院生の生活すべてにおける、その権限を全て、職員が担っている所に原因がある。つまり、これまでの学院の状況が長い年月の間に院生の主体性を奪い、結果としてこのようになっていたのではないかと。院生の横のつながりがあると言っても、現実はどこにもあるような中傷や喧嘩がある。必ずしも

望ましいと言える状態ではない。今後、これらの問題を解決するためには、今度の横のつながりを求めるためには、今日、民主的で先進的な福祉施設で実際行なわれている「自治活動」が有効であろう。「自治活動」とは入所者自らの集まりで、施設側に生活上の目的の要求を出し、実現を目指す活動として理解されている。現在の学院に「自治活動」を取り入れることは、若干の問題が出て来ると思うが、合理的に院生の生の声を聞く機会としては、良いものである。したがって、多少の混乱はあるにしても、職員が上手くリードして、形になるまで暖かく見守らなければならぬ。ともあれ「自治活動」を定着させるためには、直接に担当する職員だけに任せることなく、全ての職員がその意義をしっかりと理解し協力しあって、適切な援助をする

ことが大前提となると思う。以上への回答に関連して言えば、今年度より学院では、グループ制(実習グループ、回収グループ、室内グループ)を打ち出しており、土曜、日曜の外出をはじめ、色々なケースで班の枠を少しずつ越えようと努力しており、「出来る人が出来る人の面倒を見る」ような院生同志のつきあひも、しばしば計画されています。また、「面倒を見る」について、職員の慎重な姿勢が要求されることは確かでしょう。これは、本来職員が行なうべき仕事を院生に押しつけてはいけないからです。「自治活動」が、院生の生活に有益な活動を行なえるとしたら、それは将来の展望として、充足の実現に期待を寄せるシステムでありましょう。素心学院がスタートして、今年

素心学院って、な〜に???!

室内作業B班。3月迄は、作業B班でしたが、4月から班同志のグループ制に変わり、室内作業をしている2班で、室内作業グループとなりました。

わが班は、女性12名、男性1名。なんと、学院内の女性全体の3割を占める班です。しかも、年齢の平均が「49歳」という、学院の平均年齢を上回るシルバー班で、下は30歳から、上は67歳までの構成となっています。高齢者と言っても、その年齢に甘えるわけでもなく、他の若い人たちと同じだけ、作業時間をこなしています。

中には、作業時間外もその器用さを生かして、掃除や、食堂の配膳等も行なう、パワーあふれるメンバーも居ります。作業の内容は、年間を通して主に2種類あり、10月から翌年の5月迄は地元でのピーナツ屋さんから仕事を請負い、手刺きのピーナツを卸しています。かなり、手さばきに熟練した人がいて、軽い気持ちで一掃にやってみようなどと思っても、量は遥かに及ばない、と言った腕前です。

6月から10月中旬迄は、皆様も御存知の「紙パックの再生製品」を作る作業をしています。地域の方に頂いた牛乳パックがあるお陰で成り立つ作業ですが、腕前の方は、未だ熟練とまでは行かない様で、他の班との協力で、これから頑張って行こう、といった様子です。

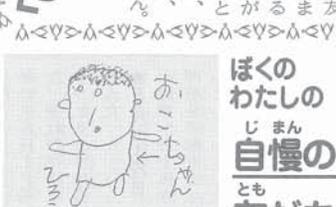
今年からは、手すきガキだけでなく、手すきの紙で、ペン皿を作るようになっています。近いうちに皆様の目に届く事になると思われれます。その時は、よろしくお願ひします。(PRでした)歳はとろうとも、まだまだイケル。これからの未来ある、室内作業B班です。壮年パワー(17)を、応援して下さい。

室内作業B班



加賀屋 小野 君と友だち 一緒に 頑張る。

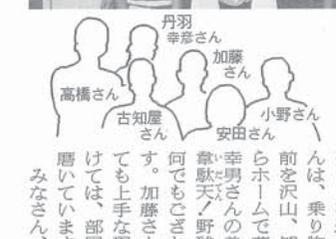
で三十四)になります。竹馬の友から、つい最近仲間入りした人で、時間のベクトルに入り幅がある七十五人の大所帯、個性と個性がぶつかって、仲良く出来ないこともあります。プラス、マイナス、つきあひ方は様々ですが、無視、無関心からは友情は芽生えませぬ。素心に広げよう ともだちの「かっ」



ぼくのわたしの じまん 自慢のとも 友だち 大八木さんにインタビュー。 「ずっと前にいた宮崎さんは、こわかったけれど仲よかったです。会いに来てほしい。」

実習グループ

七人の若武者 来たる!!



四月から仲間入りした、小野憲一さん、安田京子さん、高橋悟さん、古知屋一行さん、丹羽幸男さん、六月に加わった、丹羽幸彦さんと加藤一年さんを紹介いたします。小野さんは野球が好きでキャッチボールをよくしています。安田さんは、スマイルで可愛いお嬢さま。ちよっととニル高橋さんのピリヤードの腕前は、超一流だという噂です。シャイで温厚な古知屋さんは、仲間と語り合ったり打ち解けて、楽しい日々を過ごしています。幸男さんは、乗り物が大好き。電車の名前を沢山、知っています。六月からホームで暮らしはじめました。幸彦さんの弟、幸彦さんは駿足、軟球、野球、サッカー、水泳と何でもござれのスポーツマンです。加藤さんは、ファミコンがとても上手な現代っ子。時間を見つけては、部屋で更に、その腕前を磨いています。みなさん、どうぞ、ヨロシクね。

点に関して、より良い関係をつくるには、まだまだ改善の余地あり、と指導部会で検討されました。常に院生対職員であって、日常的に院生同志の横の関係が薄い」という議題が採りあげられ、対応、対策として「院生同志の関係をより良くするためには、職員が仲介しなければならぬだろう。外出などで班を越えたい協力、コーヒー外出などで実践中」が確認されました。その対応、対策を更に詳しく、より具体的に示すことを目的に、職員へのアンケートを実施しました。以下、これよりその回答の幾つかを紹介していきます。

(2) 職員Bの回答

以前は、職員の指導で、実習B班の人が、一階男子を食堂に誘導していた。院生のする部分、職員のする部分をきちんと考える必要あり。院生が職員を頼るのは理由があるが、院生同志の横の関係を つけるには職員サイドでの話し合いの中で院生に指導が必要。院生同志の関係が薄いのでは認められ、濃くしていく努力、必要。

宮金24面

川口賀子 柳川勤 渡辺康江 飯田功 橋本叶 飯田功 中島克彦 渡辺康江 黒田良徳 永島澄子 河野勉 (ニコリ笑って) ニヤニヤする 田原雄 (目をつぶる) 石塚謙二 小沢芳夫 あとび行きたいなあ!! 岡島裕久 車の免許かな。 秋山元広 (首を横にふる) 高橋梅子 (考え中) 江田良一 丹羽幸男 野球場 旅行に行きたいなあ!! 渡辺誠 (ニコリ笑って) 抱きかかす 高橋信子 (はにかむ) 顔を見せる 高松広明 わっわっわ!! 小林裕久 仕事。 飯田功 中島克彦 渡辺康江 黒田良徳 永島澄子 河野勉 (ニコリ笑って) ニヤニヤする 田原雄 (目をつぶる) 石塚謙二 小沢芳夫 あとび行きたいなあ!! 岡島裕久 車の免許かな。 秋山元広 (首を横にふる) 高橋梅子 (考え中) 江田良一 丹羽幸男 野球場 旅行に行きたいなあ!! 渡辺誠 (ニコリ笑って) 抱きかかす 高橋信子 (はにかむ) 顔を見せる 高松広明 わっわっわ!! 小林裕久 仕事。

直撃! アンタビュ

「今、あなたがしたいことは何ですか...?」

川口賀子 柳川勤 渡辺康江 飯田功 橋本叶 飯田功 中島克彦 渡辺康江 黒田良徳 永島澄子 河野勉 (ニコリ笑って) ニヤニヤする 田原雄 (目をつぶる) 石塚謙二 小沢芳夫 あとび行きたいなあ!! 岡島裕久 車の免許かな。 秋山元広 (首を横にふる) 高橋梅子 (考え中) 江田良一 丹羽幸男 野球場 旅行に行きたいなあ!! 渡辺誠 (ニコリ笑って) 抱きかかす 高橋信子 (はにかむ) 顔を見せる 高松広明 わっわっわ!! 小林裕久 仕事。

☆6月22日
 以前、学院に在院していた方の弟さんにあたる方で、現在、平塚にうどん屋「ミヤビ」を経営する高橋雅彦氏が来院者に、おいしい手打ちうどんをごちそうしていただいた。



☆6月7日
 大磯町旅館飲食組合の方々が来院するのも、今年で3年目を数える。昼食におそばをごちそうしていただいた。

☆6月21・22日
 横浜への全体旅行にて、守永理事長の戦友、かつおぶしの「はいくっく」で有名な柳屋本店の会長である村松直樹氏(焼津市在住)より、おみやげとして、めんつゆ200本と、冷凍カツオ30本を頂いた。めんつゆ

☆4月15日
 女子寮の増改築工事の完成を記念して「落成式」が行われた。生憎の天候のため、行われたパティオは学院内で、行われたが、一環を身にまとった皆の顔はキラキラ輝き、「落成式」を盛り上げる原動力になっていたようだ。

☆4月18・23日
 絵画クラブの講師である佐々木壮六画伯の主催する「壁画展」の展覧会が藤沢ルミネ展で開催された。当学院絵画クラブより数名の作品もこの間展示され、好評を得た。

☆5月13日
 毎年末のカレンダー販売にご協力頂いている「山武ハネウェル」が主催するイベント「ゆうあい・SHIP'89」に招待された。憧れのマリンスイットルでゆったりとした横浜港遊覧を楽しんだ。

素心歳時記



女子寮改築工事に合わせ、現在陶芸クラブ等で、伊藤講師と共に、院生の陶芸制作に力を貸していただいている佐藤講師より、「水琴窟」が寄贈されました。「水琴窟、ちよとと耳なれない言葉……。そこで忙しい中、そのしくみについて佐藤講師に書いていただきました。

これが水琴窟なのです。

陶芸講師 佐藤 一新

空間が存在することにより「点」で始まる音が、様々な変化を得て「空間」そのものに成りそして外へと向かい響の音を奏ではじめる。「点」「空間」そして響への変化は、時間的な要因が大半を占める。さしたるに「点」であった音が、洞窟内で色々な角度や距離のある壁面にぶつかり、質的变化を遂げ、到達時差を得て響となり、飛び込んで来る。これが空間そのものを聴覚で味わうという体験



佐藤講師

女子寮前の小丁が丘で……
「水琴窟」庭の手水鉢や蹲踞などの周辺の地下に、比較的小さな洞窟を造り、その中に水の点滴を落して、水音を洞窟の壁面に反響させ、それがやがて地上に漏れて、静かに染しもうとするものである。山平勝蔵著
「庭の水音の秘密」より
窟口を耳を近づけてみると間歇的に、密やかな音が聞こえてくる。本来ならば、水滴の落下音など一瞬であり、人に情感を流入するだけの作用は生じ難くなるのだが、そこに地下に埋められた壺という

歌い手の高石ともやという人が先日、オーストラリアで開かれたウルトラマラソンを8日間で完走した。このレースは1000km以上を走るもので、毎日時間内に規定キロ走破しなければ、その時点で失格となる過酷なものである。昨年彼が参加した時は900km地点でリタイアとなった。その時のレポートをレビューで読んで、女性が完走していることにも驚きを感じた。高石氏はかなり以前、山陰の米子で開かれた第一回トライアスロンで一位になった人でもある。トライアスロンとは、水泳3km・自転車160km・マラソン42.195kmをぶっつけでこなすものである。他に仕事をしながら趣味でやっているのだから、中年になってから始め、現在私よりかなり年上の人にしてこれである。人間やればできるんだなあと、思ってもみたりするのだが……

私にとっての長い距離とはピニールテントを横断して大阪から箱根まで自転車で行ったこととか、マラソンの距離42.195kmを完走できない為、歩いたり走ったりして体感したことくらいである。高石氏と私の共通点があるとなれば、自分の意志で行動したことくらいであろう。

昭和田聖、美空ひばり、ビートルズ、フォークソング…… みんなどこかへ行ってしまった。今生きている私、そして…… 多くの人達。人生はよく旅にたとえられる。人生が旅であるならば、自分の旅程は自分で決めて歩いて行きたい。『旅が楽しいのは帰って行く所があるから』

【室内作業A班 芳村哲夫】

兄弟ペンリレー

思、出

回収C班 高松妙子

素心学院にお世話になって二十三年(成人施設が出来た時から)今日迄、広明についてはいろくな思い出があります。素心に入ってから二、三年してからの春休みの帰毛の時、いつもでしたら白目駅でおられるのですが、一つ手前の池袋駅で下車すると云っている事を聞かすおりにしてしまいました。白目駅からは家迄五、六分の所ですが、池袋からは倍以上歩く様になってしまいました。三分の二位歩きまわしたでしょうか、やっと池袋警察の通用門の所迄きまして、門内何台かのパトカーが駐車してありますのを見て、自動車で乗りたいたいと云って降り込んでしまいました。何としても立てくれません。

中、車に乗りたいたいと云われ困っている事を話している最中に、広明が急に立ち上りパトカーの駐車してある方に走り行って行きましたので、二入の巡査は職業柄かまるで犯人を追いかける様にして大きな声で「あっちへ行ったら捕える」等と、云ってかけて行きました。外のそうぞうしい事で中から上司の方ができてきて私の所にきましたので、事情を話しましたところ、その方は二人に向って



素心学院、回収グループでは院生の皆さんの作業として学院周辺地域の古紙回収を行っています。<現在は、石神台、月京、新宿、中丸、馬場、生沢の一部、西小磯西、7月より西小磯東>回収物は新聞、雑誌、ダンボール、古着です。

回収グループ

各区域を車とリヤカーで「月の砂漠」のスピーカーを鳴らしながら、ゆっくりと廻っています。なお回収物は、種類別に分類し、たばねられ業者に売られていきます。そこから、新聞、雑誌、段ボールは、富士のふもとの再処理工場で、新しく生まれかわります。古着はすべて集められ、業者に引きとられていきますが、使用できる衣類は、工場でクリーニングにかけられ、東南アジア、アフリカの国々に送られていきます。皆様のご協力ももちまして、回収作業も12年の月日が流れております。ゆっくりと、しかし着実に地域にひろがり、お得意様までできる程になりました。資源再利用にどうぞ素心学院回収グループをご活用下さい。

ご報告

たいへん遅くなりましたが、昨年度の収益の報告をさせていただきます。各グループとも一昨年をうわまる健闘ぶりです。年間105万円を売り上げることができました。その中から還元金として20%21万円を前述の各地区にお返しさせていただきました。ご協力ありがとうございました。<エアロビクスクラブ講師>

女子寮も完成し、院生も静かに充実した生活が出来る様になりました。私自身いつまでも健康で広明のために、がんばっていかねばと願っております。



今年四月から新設されました、エアロビクスクラブを担当させていただきます。加藤由香里です。現在私は、東京のシルバートレーニングの倉井陽子先生のもとで、研修生として勉強に励んでおります。今後の抱負については、今後の抱

パトカーに乗せて送ってあげなさいと云われました。二人の巡査は私達親子をパトカーに乗せて、家の横迄送ってくれました。

ちよとお耳を— エアロビクスクラブ 誕生! *加藤由香里*

今年四月から新設されました、エアロビクスクラブを担当させていただきます。加藤由香里です。現在私は、東京のシルバートレーニングの倉井陽子先生のもとで、研修生として勉強に励んでおります。今後の抱負については、今後の抱